

University
Current
Review

ISSN 0288-1748 2021(令和3)年 3月20日発行【隔月刊】

[特集]

「繋がる」を考える

—帰属意識を高めるインナーコミュニケーション—

大学時報

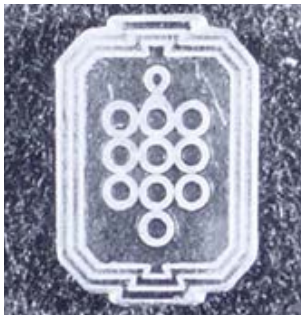
NO.397
2021. **03**



福岡女学院看護大学



最初の校章(1915年)



現在の校章(1941年)



青空礼拝(1945年) 福岡大空襲数日後から全焼した校庭で毎日行われた。



福岡女学院看護大学古賀キャンパス(2021年)

左手前が1号館(2008年)、右側手前が2号館(シミュレーション教育センター、2016年)、中央奥が3号館(徳永徹記念多目的ホール、2019年)



校章外側の3本の線は「信仰と希望と愛」を表し、内側のぶどうの房を模した部分はキリストとキリストにつながる大学の学生・教職員を表す。建物の定礎には校章と青空礼拝の心由来する「主に在りて」(1号館)「主の良き道具として」(2号館)「信仰と希望と愛」(3号館)という文言が刻まれている。

福岡女学院看護大学古賀キャンパス

福岡女学院看護大学は、「キリストの教えに基づいて女子教育を実践する(建学の理念)」ために135年前に創立された福岡女学院(日佐キャンパス・幼稚園から大学院)が、新たな社会貢献を望み、2008年に設立した若い看護大学(古賀キャンパス)である。

福岡女学院は、満州事変に始まる反米反日の心の傷と第二次世界大戦による校舎の全焼という満身創痍の中、今日まで「建学の理念」に沿って生きる事ができた幸いに深く感謝している。この苦難を支えた理念は、校章に刻まれている。校章は、信仰・希望・愛を表す3つの十字架が、「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。(「ヨハネによる福音書」第15章5節)」という学院聖句を包み込んでいる。

聖句が形となって現れた出来事の一つが、校舎全焼の数日後から連日行われた「青空礼拝」である。

福岡女学院看護大学は、「校章」「青空礼拝」という女学院の宝に感謝できる幸せをいつまでもつなぎ共有することを願い、建物で「校章」を表現した。すなわち1号館はキリストの心、2号館はキリストにつながる学生・教職員、そして3号館は、1号館と2号館を優しく包み込む「信仰と希望と愛」である。

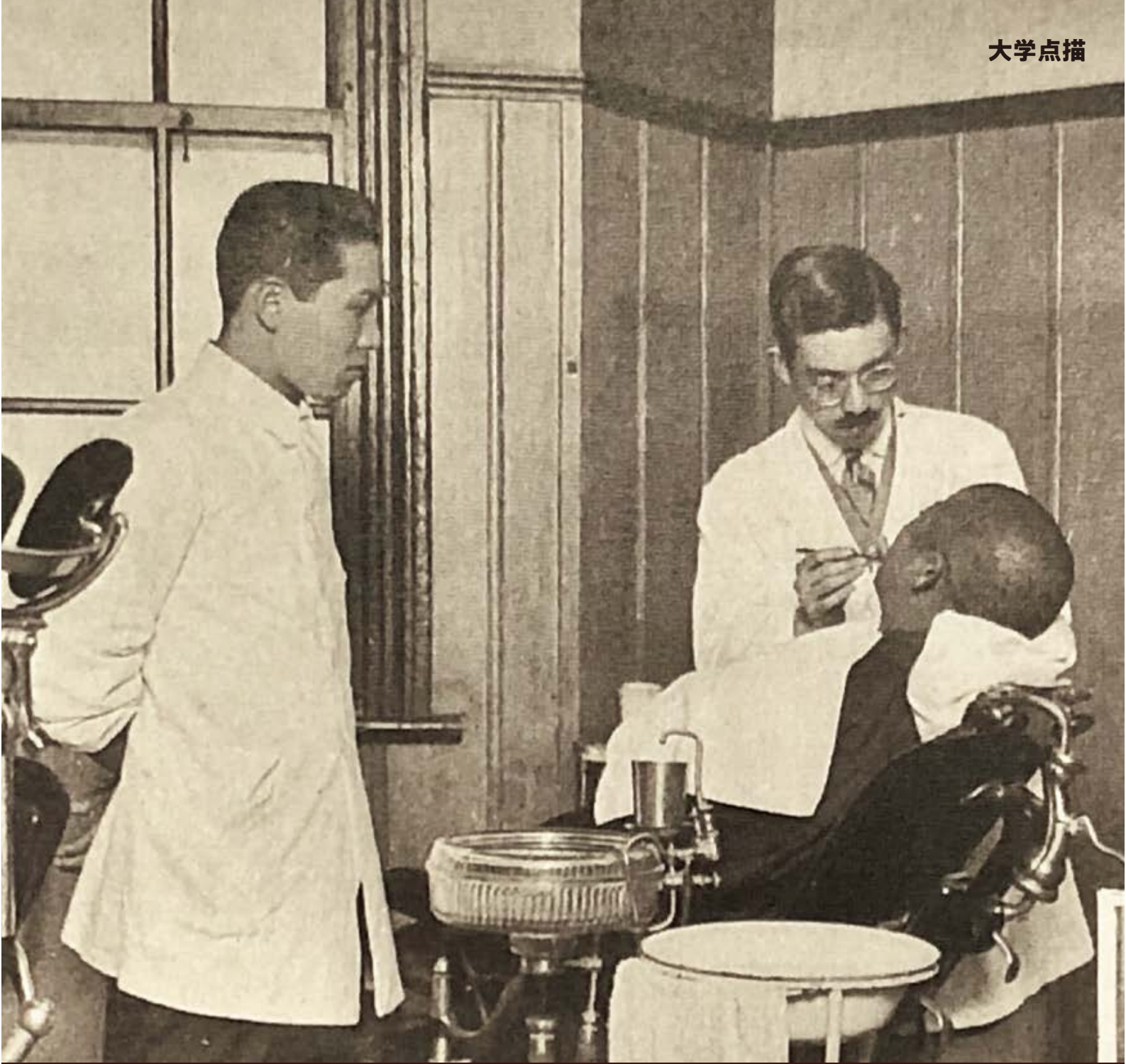
そして、「青空礼拝の心」を3つの建物それぞれの基礎に刻んだ(1号館・主に在りて、2号館・主の良き道具として、3号館・信仰と希望と愛)。

福岡女学院看護大学の学生・教職員はこの祈りを胸に、社会のより良い道具となるべく日々歩んでいる。

表紙：プラム

バラ科の落葉小高木。和名スモモ。果実が桃に似ており、桃より酸味があることから名付けられたといわれます。中国古典詩「李下に冠を正さず」ではスモモの木の下で冠をかぶり直すと実を盗んでいるように見える、人から疑われるような行動は避けるべきという例えに使われています。

127	126	118	116 114 112	106	104	96	92	86
執筆者・出席者のご紹介(掲載順)	新会員代表者紹介	クローズアップ・インタビュー	加盟校の幸福度ランキングアップ《植物園編》	明日への試み	私の授業実践〜教育現場の最前線から〜	寄稿	情報技術で3密回避を支援	
129 私大連ニュース	青山学院大学／松山大学	株式会社ラウンドワン 代表取締役社長 杉野公彦さんに聞く (聞き手) 脇浜紀子	「慈悲のこころ」を醸成するお宝の場所づくり 市瀬浩志 聖書で出会った植物とキャンパスで出会う―西南学院大学聖書植物園― 小林洋一 自然の移ろいを感じ、自然を学ぶ 小川博	大正大学社会共生学部 社会への共生理念の浸透を求めて 高橋正弘	グローバルビジネスの現場から学ぶ演習―学生の自主的な運営からの効果― 国松麻季	新型コロナウイルス感染症に関わる研究から考える未来 ―社会共生価値を創造する次世代研究大学の実現に向けて― 野口義文	―時差通勤・通学を促すためのバス停混雑度情報可視化システムの開発― 荒川豊 大学窓口に限定されないサービス展開の可能性 ―中央大学 証明書発行サービス― 宮本伸之	
130 年間総目次								
136 編集後記								



日本初の 歯科医師 養成機関

東京歯科大学の歴史は、一八九〇年に高山紀齋先生によって開かれた、日本初の歯科医師養成機関である。高山歯科医学院に遡ります。当時の日本では先進的な歯科医療の知識を学ぶ道は非常に限られていました。そんな中で米国に留学し、米国の歯科医師免許を取得した高山先生は、帰国後、高度な歯科医学の知識と臨床技術を併せ持つ歯科医師の育成を目指しました。

(一〇〇年前の歯科診療風景。診療を行う歯科医師と指導を受ける学生の写真。)



東京歯科大学の一三〇年にわたる伝統の根幹をなすのは「歯科医師たる前に人間たれ」という血脇守之助先生（本学初代学長）の言葉です。歯科医師としての知識や技術のみならず、高い倫理観や人間性を持つ、品性ある歯科医師の育成を本学の使命として継承してきました。社会性を身につけ、人間的に優れた良識豊かな歯科医師を養成すべく、充実したコミュニケーション教育が行われています。

歯科医師
たる前に
人間たれ



東京歯科大学は3つのキャンパスを有し、それぞれに特徴の異なる医療施設を、教育・研究・診療に活かしています。

「水道橋病院」では各診療科で実習を行い、先端医療を含め、様々な治療を学ぶことができます。

「市川総合病院」は、医科歯科連携を直接学ぶことができる貴重な場です。

ここでは、スキルスラボを通して、学生や研修医、看護師、リハビリ関係の職員達が共に学んでいます。また口腔がんセンターでは、歯科・耳鼻科・形成外科との連携による一貫性のある医療が行われています。

そして「千葉歯科医療センター」では、地域に密着した歯科医療とこれからの歯科医師の育成を目指しています。

今日、社会構造の大きな変貌と共に、歯学・医学教育の在り方が問われています。超高齢化に伴い、全身疾患を抱える患者対応や在宅医療は、国民的ニーズとなっております。歯科医学教育においても、からだを診ることで、多職種連携のチーム医療教育が欠かせない時代となりました。



水道橋校舎本館と
水道橋病院

水道橋校舎新館

水道橋キャンパス



市川総合病院

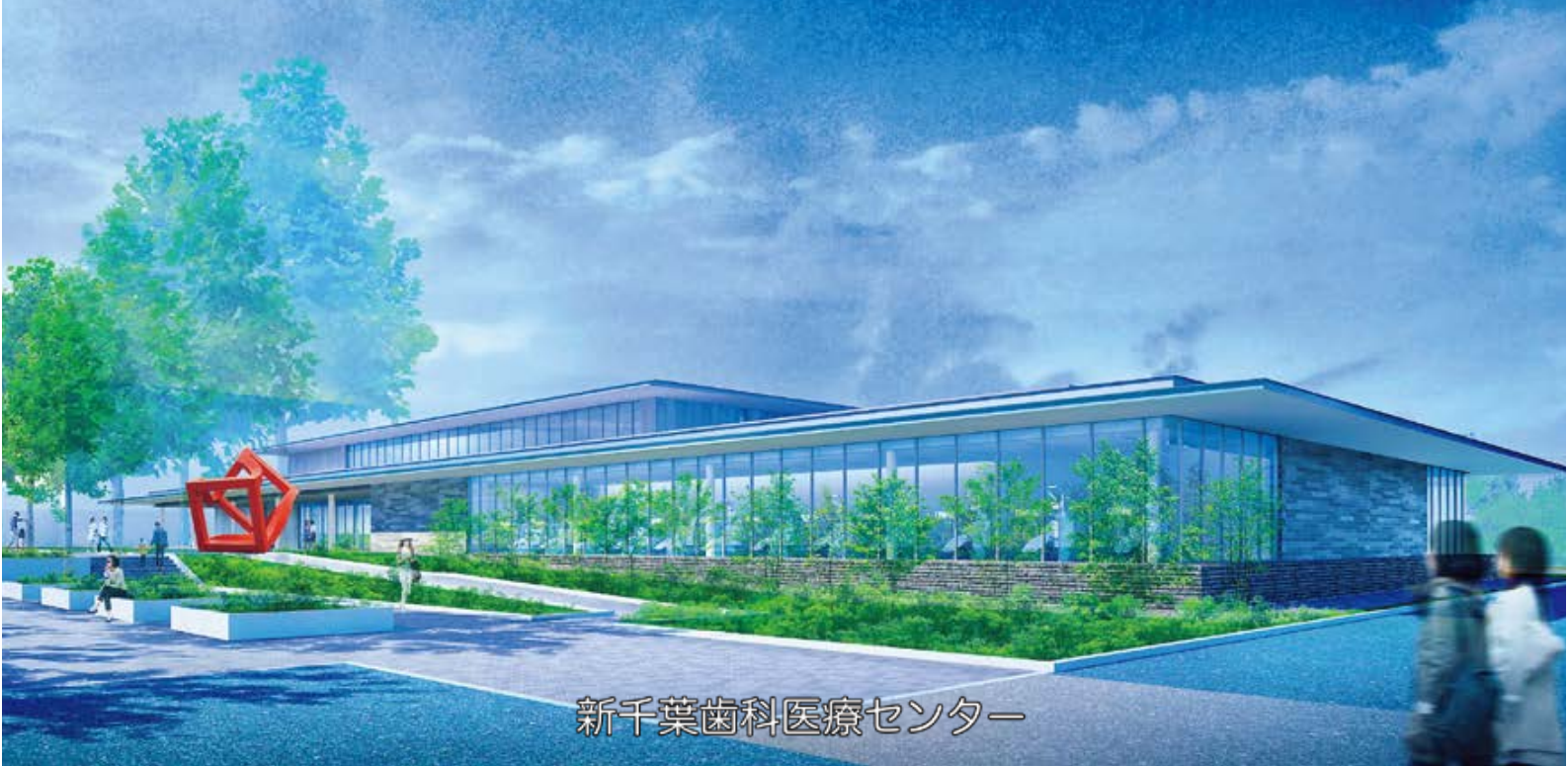
市川キャンパス



千葉キャンパス

3つの キャンパス

医学・看護・栄養学の分野でも積極的な連携が必要とされるため、東京歯科大学では、それらの学部を持つ他大学や研究医療機関との共同プログラムを通して、歯学教育のさらなる充実を目指しています。



新千葉歯科医療センター



地域の歯科医療への

貢献

東京歯科大学は千葉病院を一九八一年九月に開院し、高度な歯科医療の提供によって地域医療に貢献してきました。大学機能の水道橋移転に伴い、二〇一八年四月、病院から診療所となり、名称も千葉歯科医療センターに変更されました。

そして二〇二一年春には、新たに生まれ変わることであります。新しく建設される診療施設において、症状別に細分化された外来を設置し、今までに培ってきた地域との強い連携を活かして、かかりつけ医での対応が困難な専門性の高い歯科治療を行うほか、センターで専門治療が終了した、かかりつけ医を持たない患者様を地域の連携施設へと紹介します。

今後「これぞ歯科大学の医療施設」と呼べる充実した診療環境で地域の歯科医療に貢献していきます。

University Current Review

大学時報

2021.03 / NO.397



創立130周年を迎えて

井出吉信

学校法人東京歯科大学理事長
東京歯科大学学長

本学は1890年に高山紀齋先生によって開校された本邦初の歯科医学教育機関である高山歯科医学院を前身とし、創立130周年を迎えた。

本学の伝統の根幹をなすのは、「歯科医師たる前に人間たれ」という初代学長血脇守之助先生の言葉である。歯科医師としての知識や技術のみならず、高い倫理観や人間性を持つ、品性ある歯科医師の育成を本学の使命として継承してきた。今後も教育・研究・診療の広い分野で活躍できる歯科医師を育成し、そのノウハウを次世代へ引き継ぐという責任を果たしていきたい。

大学とは 何をする場所なのか？

加藤 映子 大阪女学院大学・短期大学学長

はじめに

2020年の新年を迎えたときに、その1年がかつて経験したことのない状況になると、誰が予想できただろうか。オンライン授業を余儀なくされ、その対応や、学生・保護者からの問い合わせに苦慮した大学も多かったと思われる。大阪女学院大学でも、春学期は全ての授業をオンライン授業とし、春の緊急事態宣言解除後にようやく登校日を設けて、新入生に初めて対面で会うことができた。そして、秋学期は感染対策をしながら、全ての授業を対面で行うこととした。

1. 建学の理念

大阪女学院の建学の理念は、次のようなものである。

「世界が君たちを必要としているよ」という米国カンバーランドプレスビテリアン教会の呼び掛けに応じた宣教師ヘール兄弟が、「日本の女性に教育の機会を」という理念の下、ウキルミナ女学校^{※1}が誕生したのは1884年のことだった。ヘール兄弟は、早くから高等教育機関を備えた学院を構想していたが、1945年の大阪大空襲で全焼した学院の復興に時間を要したこともあり、創立から84年を経た1968年に短期大学、2004年に大学、2009年に大学院を設置して総合的な教育機関へと成長することができた。

キャンパスが大阪環状線の内側の工場等制限区域に位

置しているため、大学設置が可能となったのは小泉政権下による規制緩和後の2000年代に入ってからのことである。大学のサイズ的には、国際・英語学部1学部、入学定員が150名、大学院は21世紀国際共生研究科平和・人権システム専攻(博士前期課程入学定員10名、博士後期課程入学定員4名)という小規模校であり、キリスト教教育・



[登録有形文化財]大阪女学院ホールチャペル



「主を畏れることは知恵の初め」という聖句が入った大阪女学院正門アーチ

英語教育・人権教育を学びの3本柱と位置づけて、その特色を生かした教育を行ってきた。THE世界大学ランキング(日本版)^{※2}の国際性部門で2019年から2年連続で全国4位にランクインしている。

本学の教育の根底に流れているのは、キリスト教による人格形成であり、開学以来、授業のある日は毎日の礼拝を守り、リモート授業の期間中もオンラインで礼拝を行った。また、ウエルミナ女学校の校長を長く勤めたモルガン先生の次のことばも、本学の教育の目的を的確に表すものである。「すべてにおいて、私たちがめざすことは、なんらかの方法で働く義務を悟り、正直に仕事をするを誇りとし、日常生活の雑事を越えて、物事を見抜く力のある人間を形成することです」。

このことばは、1895年に米国のミッションボード宛に送られたものだが、当時の時代背景を考えると、いかに革新的であったかが窺える。

2. 大阪女学院大学のミッション

このような建学の理念の下、大阪女学院短期大学を設

置した当初から小規模であることの良さを生かした教育をめざし、先人たちが努力を続けてきた結果の多くは、4年制の大学にも受け継がれた。以下に示す大阪女学院大学の「大学の使命(ミッションステートメント)」に定められているように、本学は「人と人が関わりあいながら学ぶ」という教育共同体の概念を学習環境の中心に据えている。

「本学は、キリスト教に基づく教育共同体である。そのめざすところは、真理を探究し、自己と他者の尊厳にめざめ、確かな知識と豊かな感受性に裏付けられた洞察力を備え、社会に積極的に関わる人間の形成にある」。

3. コロナ禍の中で

このようなミッションを抱く教育機関が、かつて経験したことのないオンライン授業に踏み切らざるを得なかった昨年の春学期の中で、私が学長として考え続けたことは、「大学とは何をする場所なのか」ということだった。

私の心を占めていたこの問いに対する答えとなったのは、短期大学開学時のメンバーで名誉教授でもある西村耕先生のことばである。それは、「リーダーシップトレーニング50

周年」をテーマにオンラインで実施した、2020年度のホームカミングデーにおいて発せられた。

「開学した頃に『大学とは何をする場所なのか』という問題提起があった。公式的に答えれば、学問を通して人間形成をする場所と言えるでしょう。その目的を実現する方法として『何を学ぶのか』『どう学ぶのか』が大切ですが、私はそのことばの前に『誰と』を付け加えたい。よく卒業式の学生のスピーチで『ハードな学びを耐えてきた』と聞きますが、『それを支えてくれたのが友達であり、先生である』ということも同じくらい重いと思う。少人数の大阪女学院は、『何をやるか』は大きい大学に及ばないかもしれないが、『誰と』という部分に大きな価値がある」。

4. 教育共同体としての大学

(1) 総合キャンパスプログラム演習

「大学とは何をする場所なのか」という問いに対する答えは、大阪女学院大学の教育共同体志向の教育プログラムの中に見いだすことができる。まず、大阪女学院のカリキュラムの特色は、21世紀を生きていく学生たちが、平和、人

権、環境といった問題を、英語「で」学ぶことにある。約85%の授業が30人以下で実施されている学習環境の下で、教員と学生、学生同士が意見を交えながら展開する授業スタイルが自然と生まれた。

また、「大阪女学院短期大学20年の歩み」の中で、当時の関根秀和学長は「学校教育の究極の目的は、生徒や学生に、人間の存在が関係的存在であることを理解せしめ、その訓練をほどこし、共同体の体験を得させることだ」といって差し支えない」と明言している。そのための取り組みのひとつが、タテとヨコの関係を築くことを目的として始まったAssembly Hourである。

共通の問題意識や志向を育むために、さまざまな問題について考えるプログラムとしてスタートしたAssembly Hourは、今は「総合キャンパスプログラム演習」という科目名で、学長担当科目の「大学で学ぶ意味を考える」授業の1年次必修科目として展開している。内容的には、自校教育(Wilminaプログラム)や女子教育、講演、卒業生ロールモデル、在学生ロールモデル、コンテストなどで構成され、受講生は授業後に毎回、「振り返り」を記入する決まりになっている。私は短大生100名強、大学生150名強の「振り

返し」を全て読み、次の授業でその内容を匿名で共有しており、このことが、新入生の間「ひとり」で学ぶのではない、教育共同体の概念」を浸透させる一助になっていると感じている。

さらに、「総合キャンパスプログラム演習」では、タテの関係作りにも工夫を凝らしていて、まず、社会で活躍する卒業生にロールモデルとして学生時代の取り組みや現在の仕事を語ってもらうようにしている。在学生にとっては、現在学んでいることが社会に出てどう結びつくのかを、自分と同じ学びをした先輩から話を聞く貴重なチャンスである。

加えて、国際交流やBig Sisterなどの経験を持つ在学生ロールモデルの話を聞くことも、「この大学で学ぶことの意味」を理解するきっかけになっており、同級生から刺激を受けることでヨコの関係が強化される。

コンテストでは、秋学期の英語の授業で学ぶ内容を元にクラスの代表が英語のダイアログを披露するというものを実施した。本学は英語習熟度別クラス編成を行っているが、コンテストの審査はクラス名を伏せて行われる。今年度の優勝は、英語習熟度が一番高いaクラスの学生グループだったが、2位・3位の入賞は習熟度の一番低いdクラスの学生が

ループだった。aクラスに次ぐ順位を獲得できたdクラスの学生たちは、嬉し涙を流し、振り返りの中で「初めて大学生らしいことができた」と書いていた。発表を見ていた同級生の振り返りでは、「同じときに、同じようにオンラインで学び始めた英語なのに、あのようなパフォーマンスができるようになっていく」という驚きも記されているほどだった。クラスは英語習熟度別であっても、実際の学生の知的レベルに違いはないことが証明されたコンテストとなった。

(2) リーダーシップトレーニング

課外活動として特筆すべきプログラムは、リーダーシップトレーニングである。これを本学では、人と人が関わる人間関係トレーニング^{※3}であると捉えて行っている。座学と3泊4日の合宿の中で、「今ここで」自分自身と相手のことを理解し、正直に関わるという経験をした学生たちは、新入生をサポートするBig Sisterの役割を担う。そして、リーダーシップトレーニングにおける学びが、この新入生サポートの実践を通じて生きてくることを実感するのだ。

5. 今後の課題とチャレンジ

オンライン授業を実施せざるを得ない状況の中で、当初は、新入生が本学のめざす教育共同体を理解できるだろうかと心配だった。しかし、2020年度の新入生はオンライン授業期間中も何らかの方法で大学や共に学ぶ仲間とながろうと努力し、教職員やBig Sisterたちも懸命にさまざまな工夫をしてくれた。その結果、例年とは異なるやり方ではあっても、教育共同体という概念を新入生に伝えることができたのではと思っている。初めての学期全てがオンライン授業という未曾有の状況の中で、こうした概念を共有できる新入生をお迎えできたことに対して、感謝の思いしかない。

このような体験を経て今後のことを考えるとき、私は2つのチャレンジすべき課題があると感じている。1つめは、この教育共同体を新しい教職員にどのように受け継いでもらうのか？ どのように共有していくのか？ ということだ。そして2つめは、今も予測不能な状況の中で「大学とは何をやる場所なのか」を学生とどのように共有していくのか？ ということである。2021年が、この先どんな年になるかは、はっきりとはわからない。人間と人間が関わるという本学の

特色あるリーダーシップトレーニングも、2020年度には断念せざるを得なかった。しかし、それでも建学の理念を忘れずに取り組んでいけば、必ず道は開けるものと確信している。

※1 第二次世界大戦下における政府の指示により、校名変更を余儀なくされた。

※2 THE世界大学ランキング(日本版)：
<https://japanuniversityrankings.jp/rankings/total-ranking/>

※3 本学のリーダーシップトレーニングでは、米国発祥のLaboratory Trainingという人間関係訓練の手法に基づき、人間的成長のための「Tグループ」というグループアプローチを採用している。これを日本で初めて採り入れたのは立教大学キリスト教教育研究所であり、通常は1週間前後の合宿研修において、10名前後のグループにファシリテーターがついてセッションを行う。話題も手順も決められていないため、「非構成的グループ」とも呼ばれる。本学ではこの研修を受けた教職員がリーダーシップトレーニングを担当している。